



虹の家 利用者さんの状況

副施設長 横山耕太

虹の家の定員は25名ですが、現在24名の方にご契約いただいております。利用者さん個々の状況やご家庭の環境などを考慮して、通い・泊まり・訪問の各サービスをご提供させていただいております。以下、3つの指標（下図参照）に沿って、利用者さんの現況をご報告いたします。

4月末時点で、利用者さんの平均年齢は87.9歳です。98歳のMさんを筆頭に半数近く11名の方が90代。昨年同月と比較すると90代は3名増、一方で80代は3名減で、利用者さんの超高齢化の傾向は顕著です。実際、利用者さん同士の会話を聞いていても、昭和生まれの80代後半の方々は虹の家ではいまだに「若手」なのです(!)。

平均要介護度は2.2で、厚生労働省が小規模多機能型居宅介護施設の平均要介護度として想定している3.5よりもかなり低い水準にあります。これは、要介護度がまだ低い状態のうちに利用者

さんの支援に関わらせていただいていることの表れと捉えております。特に認知症の方の場合、症状が出始めた早い段階から医療・介護・福祉の専門家がチームを組んで関わることで、自分らしい暮らしを続けられる期間が延びることが各種調査でも指摘されています。我々虹の家もそのチームの一端を担っていきけるよう、今後も支援の在り方を追究していきたいと考えております。

とはいえ、利用者さんの状況は、一年前と比較して要介護1以下の比較的軽度の方が減少する一方で、中重度の方が増加する傾向にあります。また、世帯構成をみても、同居家族の介護力が期待できる世帯が減少し、完全独居や高齢夫妻のみの世帯など、24時間体制で見守りや支援が必要と考えられる方々の増加が見て取れます。

このような状況は今後長期間に亘って続く予想されます。利用者さん本人はもちろん、家族の方々のニーズをもくみ取り、双方の気持ちに寄り添って柔軟なサービスを継続的に提供してゆくことが、今後ますます虹の家に求められてくると考えております。



虹の会 ニュース

第48号
2015. 5. 1
発行

編集発行 特定非営利活動法人 虹の会
TEL 04 (7179) 3133
FAX 04 (7179) 3130
〒270-1114 我孫子市新木野 3-32-15
郵便振替口座 00180-0-592018



新年度にあたって

理事長 高井睦美

2000年に介護保険法が施行され、以後3年毎に介護報酬（介護事業者に支払われる報酬）の改定がなされてきました。

このたびの改定の背景には、2025年に高齢者数がピークに達するという見込みのもと、「地域包括ケア」と「持続可能な制度」の実現のため、介護給付費の抑制と給付の重点化を図ることがあるようです。しかし、基本単価の大幅な減少や、条件付きの加算をプラスしても平均2.27%減という今回の改定は、事業所にとって大きな痛手となります。そして、条件付きの加算を各々クリアするには、職員の質の向上（資格取得支援や研修計画）や勤務条件（キャリアパス要件）の整備などが求められます。私どものような小さな事業所が生き残ってゆくためには、大変な困難が予想されます。

「介護が必要になってもできるだけ長く自宅に住み続けたい」という当たり前のねがいを支援するため、当会が「宅老所 虹の家」をオープンしたのが2003年9月。以来2008年6月には小規模多機能型に移行し「通い」「訪問」「泊まり」を組み合わせた新たなサービスを行うようになりました。それらのサービスだけでは対処しきれない場合には、個別対応をして真の在宅支援を実現すべく、今日まで努力を重ねてまいりました。ただ、それも、数少ない職員の力だけでは限りがあります。

国民が求める地域包括ケアは、独り暮らしであっても、介護や医療が必要になっても、認知症になっても、それにお金がなくとも、必要な医療・

保健・福祉が切れ目なく保障される体制です。この体制をいかに整えてゆくか、そのために虹の会が採るべき道はどれか、将来展望は決して楽観できません。しかし、ここが踏ん張りどころと考えて、本年2月より横山耕太さんを副施設長に任命し、若い力でこの困難な道を切り拓こうと鋭意努力しているところです。



仕事を通して

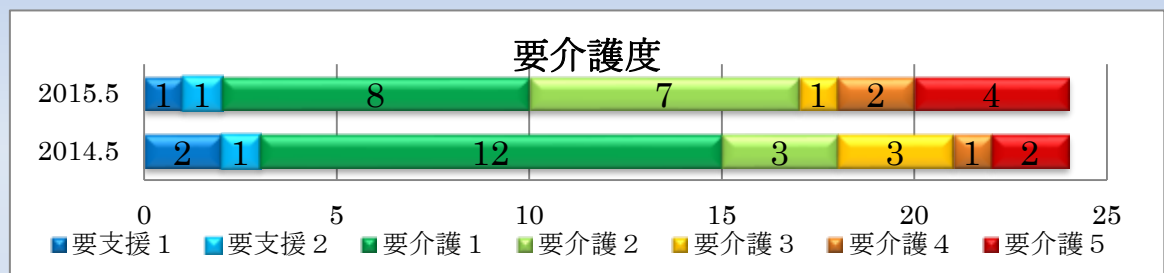
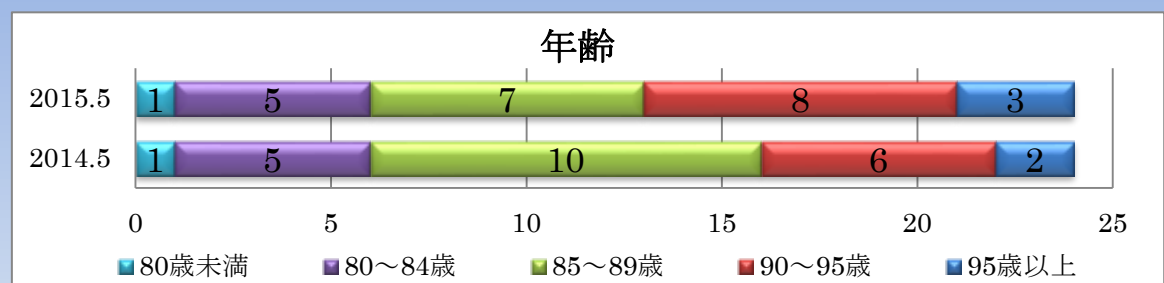
介護支援専門員 田中さな江

言葉で伝えることができない方でも、歩んできた人生、性格や表情などからその方の本当の想いを探って、心の声に耳を傾ける（傾聴する）ことを心がけています。料理が出来ないAさんの計画を立てるに当たり、しっかりと食事をとってもらうことを優先して介護者目線で考えて、毎日虹の家に通ってもらい食事支援をする計画を立てました。その後、計画を見直しているうちに、Aさんの本当の想いは…？と気になりました。

認知症を患って語彙が少なくなってしまったAさんですが、根気強く傾聴して「料理はできなくなったが、すべてを他人にお膳立てされるのは嫌だ。不自由でも、自分の思うとおりに食べていきたい」という本音を伺うことができました。

自分の物差しだけで考えてはいけないと改めて勉強させられた出来事です。ただし、Aさんの思いだけを尊重すると、一方では思わぬ事故のリスクを高めてしまう事にもなりかねません。

Aさんの心の声をくみ取りながらも、Aさんにとって本当に必要な支援はなんなのか…と日々頭を悩ませながら仕事をするのが私の使命だと思っています。



虹の家Diary



3月27日 本物の桜が咲く前に、貼り絵の桜が満開になりました。いつもは工作のりを使うのですが、今年は両面テープを試してみました。出来栄はいかがでしょうか？



4月20日 貼り絵の出来栄が上々で皆さん満足そうです。完成して張り出した当初は「満開」だったのですが、この撮影の時には、スタッフの遊び心で「すでに盛りを過ぎた桜」になっているんです。もう少しすると「葉桜」になるかも！？



4月2日 こちらは本物の桜。今年は開花の時期に雨が多くて、なかなかお花見に行けませんでした。この日はうまいこと晴れてくれました。道崎公園にて記念撮影。みなさん気持ちよさそうです。



1月6日 年始の恒例、初釜の日。普段飲んでいるお茶とまた違った趣に、飲むのが苦手な利用者さんも思わずごっくん。



1月28日 キーボード演奏の鳥谷部さんがボランティアで来所してくれました。リクエストに応じて即興で演奏してしまうその腕にいつも感心してしまいます。大きな声量と明るいキャラクターで利用者さんも毎回ノリノリです。



3月30日 第2回ペットボトルボーリング大会！！ 玉の行方に一喜一憂。脇で見守る方々の表情も印象的です。

朝のひととき、皆さんとお茶を飲みながらおしゃべりを楽しみます。(これも大事な脳トレです)
 3月9日は、私が「あら、今日は3・9(サンキュー)の日だわ」と言うと、皆さんも気づいて「あら。ホントだね」と頷かれます。
 更に私が「どなたにサンキューといたいたいですか？」と訊ねると男性のYさんは即座に「そりゃあちゃんだ！」。
 他のスタッフが「奥さんにちゃんとそう言ったことあるんですか？」と聞くと、「そんなこと、言うわけないだろう」と威張っています。
 女性の利用者さんはみな笑っています。
 「たまには奥さんにサンキューと言ってみてくださいよ」私が言うと、女性はみな頷いています。それを聞いていたKさんは「やっぱり家内だな」とポツリと一言。
 また、Jさんからは、サンキューは私たちスタッフに対して言いたい、うれしい言葉頂きました。
 みんなの心がちょっぴり温かくなりました。

朝のおしゃべりタイムから

介護職員 染谷京子

3月末日 高井浩幸さんが理事を退任されました。

平成15年の設立当初から昨年まで理事長をつとめられ、奥さん(現理事長)と二人で虹の会の基礎づくりに尽力して下さいました。長い間ありがとうございました。今後は、のんびりと旅行をしながら、虹の会の行く末を見守って下さい。

長い間
お疲れ様でした！



ボランティアさん募集中

利用者さんと一緒におしゃべりをしたり、ゲームをしたり、お散歩に行ってください方。お掃除や簡単な作業をお手伝いいただける方。音楽や踊りや手品など、一芸を披露して下さる方。「ゆっくり、一緒に、笑顔で、楽しく」利用者さんとともに過ごしていただける方。

資格や経験は必要ありません。ご希望を伺ったうえで、無理のない範囲でお手伝いしていただければと思います。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

スタッフ紹介

「虹の家の皆さんの笑顔にふれて」

寺島恵里子

4月より再び虹の家のスタッフとして仲間入りさせていただくことになりました。長いブランクもあり、お役にたつか否か不安でしたが、皆さんの笑顔、以前と変わらぬ居心地のよさにひとまず安堵しております。今後とも、宜しくお願い致します。

